



# Analysis of post-extraction bleeding in patients taking antithrombotic therapy using data from the longevity improvement and fair evidence study

中村, 純也

---

(Degree)

博士 (保健学)

(Date of Degree)

2024-03-25

(Date of Publication)

2025-03-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第8908号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100490133>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



(様式 3)

## 論文内容の要旨

専攻領域 リハビリテーション科学

専攻分野 運動機能障害学

氏 名 中村 純也

論文題目 (外国語の場合は、その和訳を( )を付して併記すること。)

Analysis of post-extraction bleeding in patients taking antithrombotic therapy using data from the longevity improvement and fair evidence study

(レセプトデータを用いた抗血栓療法患者における抜歯後出血の分析：LIFE Study)

論文内容の要旨 (1,000 字～2,000 字でまとめること。)

序論：抜歯は最も頻繁に行われる口腔外科処置であり、主な合併症として腫脹、疼痛、出血、感染などがある。その中でも出血は最も緊急性が高く、再止血や入院などの追加治療が必要となることもある。抗血栓療法は出血の主要な危険因子として認識されており、抗血栓療法患者における抜歯後出血について調査した研究も数多く存在し、本邦において「抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン」も存在する。しかし、先行研究のほとんどはサンプル数が少なく、抗血栓療法に使用される薬剤の種類や数に着目した研究もほとんどない。本研究では、大規模データベースを用いて、抜歯後出血の発生率を明らかにし、抗血栓療法の種類に注目し、各薬剤種における抜歯後出血の発生率と傾向を調査することを目的とした。

方法：本研究は、大規模多地域コホート研究 (Longevity Improvement and Fair Evidence study: LIFE Study) の 2014 年 10 月～2019 年 3 月のデータを使用し、期間内に抜歯を受けた国民健康保険・後期高齢者医療制度加入者 (n=107,767) の請求データを対象とした横断研究である。抜歯と同月の薬剤コードから 278 種類の抗血小板薬、16 種類の直接経口抗凝固薬、19 種類のワルファリン系薬剤を抽出し、抗血栓療法の種類を先行研究に基づいて 6 群に分類した (抗血栓療法なし、抗血小板薬単独、抗血小板薬 2 剤、直接経口抗凝固薬、ワルファリン、抗血小板薬と

抗凝固薬の併用)。アウトカムは、抜歯と同月のレセプト病名「抜歯後出血」の有無と定義した。抜歯後出血に影響する可能性がある併存疾患は、先行研究より高血圧、腎機能障害、肝機能障害、脳血管疾患、血液凝固障害を抽出した。まず、各抗血栓療法群における抜歯後出血の発生率を算出した。さらに抗血栓療法と抜歯後出血との関連を詳細に検討するため、抜歯後出血を目的変数、各抗血栓療法を説明変数、年齢、性別、チャールソン併存疾患係数、抜歯後出血に影響する可能性がある各併存疾患の有無を調整変数とした多重ロジスティック回帰分析を行った。

結果：抗血栓療法は 14343 例（13.3%）に施行されていた。抜歯後出血は 419 例（0.4%）に認めた。各抗血栓療法群における抜歯後出血の発生率は、抗血栓療法なし：0.3%、抗血小板薬単独：0.6%、抗血小板薬 2 剤：1.3%、直接経口抗凝固薬：1.7%、ワルファリン：1.9%、抗血小板薬と抗凝固薬の併用：2.8%であった。抜歯後出血の発生率は、抗血栓療法なし群、抗血小板薬単独群で他の群より有意に低かった（オッズ比：2.00-9.02）。

結論：抗凝固療法または複数の薬剤による抗血栓療法を受けている患者では、抗血栓療法なし、抗血小板薬単独内服患者と比べ、抜歯後出血の発生率が高くなる可能性がある。

指導教員氏名：秋末 敏宏

(別紙 1)

## 論文審査の結果の要旨

氏 名	中村 純也		
論文 題 目	Analysis of post-extraction bleeding in patients taking antithrombotic therapy using data from the longevity improvement and fair evidence study (レセプトデータを用いた抗血栓療法患者における抜歯後出血の分析:LIFE Study) (外国語の場合は, その和訳を併記すること。)		
審 査 委 員	区 分	職 名	氏 名
	主 査	教授	秋末 敏宏
	副 査	教授	小野 玲
	副 査		印
	副 査		印
要 旨			
<p>本研究は、Longevity Improvement and Fair Evidence study (LIFE Study) データを使用し、抜歯を受けた国民健康保険・後期高齢者医療制度加入者 (n=107,767) の請求データを対象とした横断研究である。抗血栓療法を6群に分類 (抗血栓療法なし、抗血小板薬単独、抗血小板薬2剤、直接経口抗凝固薬、ワルファリン、抗血小板薬と抗凝固薬の併用)、アウトカムは、抜歯と同月のレセプト病名「抜歯後出血」の有無と定義した。結果、抗血栓療法は14,343例 (13.3%) に行われ、抜歯後出血は419例 (0.4%) に認めた。抜歯後出血の発生率は、抗血栓療法なし群、抗血小板薬単独群で他の群より有意に低かった。(オッズ比: 2.00-9.02) 以上の結果から、抗凝固療法または抗血栓療法を併用している患者では、抗血栓療法なし、抗血小板薬単独内服患者と比べ、抜歯後出血の発生率が高くなることを明らかにした新知見を得たものであり、抜歯後出血のリスク管理、抜歯後出血予防の新たな介入につながる価値ある知見の集積であると認める。</p> <p>よって、学位申請者の中村純也は、博士 (保健学) の学位を得る資格があると認める。</p>			
掲載論文名・著者名・掲載 (予定) 誌名・巻 (号), 頁, 発行 (予定) 年を記入してください。 Analysis of post-extraction bleeding in patients taking antithrombotic therapy using data from the longevity improvement and fair evidence study. Nakamura J, Nakatsuka K, Uchida K, Akisue T, Maeda M, Murata F, Fukuda H, Ono R. Gerodontology. Jul 19, 2023. doi: 10.1111/ger.12703.			